

知多市立旭東小学校 いじめ防止基本方針

1 いじめの防止についての基本的な考え方

いじめ(*1)は、いじめられた児童の心身に重大な影響を及ぼす許されない行為である。しかし、どの児童も被害者にも加害者にもなりうる。また、いじめはこの学校・学級でも起こりうる。これらの基本的な考えを基に教職員が日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的に対応していく。

何より学校は、児童が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場でなくてはならない。本校が目指す児童の「役割づくり」「居場所づくり」「絆づくり」を意識した教育活動を実践する中で、児童一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいく。そうした中で、児童が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間とともに人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

*1 いじめの定義：

児童等に対して、該当児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

2 いじめ防止対策組織

「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、いじめの兆候や懸念、児童からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応する。

校長、教頭、教務主任、校務主任、学年主任、生徒指導主任、保健主事、養護教諭、学級担任等で構成し、必要に応じて、スクールカウンセラー等を加える。

(1) 「いじめ・不登校対策委員会」の役割

ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認

- ・学校評価アンケート、及び、教育相談を年3回行い、学校におけるいじめ防止対策の成果について検証を行い、改善策を検討していく。
- ・職員会議や学年間での児童の実態把握と情報の共有・対応策を検討する。

イ 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で、全職員に「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、教職員の共通理解を図る。
- ・心と体のアンケート（いじめの項目を含む）や教育相談の結果の集約、分析をふまえて問題行動への対策の検討を行い、実効あるいじめ防止対策に努める。

ウ 児童や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発

- ・学校だよりやホームページ等を通して、いじめ防止の取組状況や学校評価結果等を発信する。

エ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）

- ・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、正確な事実の把握に努め、問題の解消にむけた指導・支援体制を組織する。
- ・事案への対応については、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外

部の専門家，関係機関と連携して対応する。

- ・問題が解消したと判断した場合も，その後の児童の様子を見守り，継続的な指導・支援を行う。

3 いじめの防止等に関する具体的な取組

(1) いじめの未然防止の取組

- ア 児童同士の関わりを大切にし，互いに認め合い，ともに成長し，自己有用感を体感できる学級づくりを進める。
- イ 児童の活動や努力を認め，自己肯定感を育む授業づくりに努める。
- ウ 教育活動全体を通して，道徳教育・人権教育の充実を図るとともに，体験活動を推進し，児童が命の大切さを実感でき，相手を思いやる心の醸成を図る。
- エ 情報モラル教育を推進し，児童がネットの正しい利用とマナーについての理解を深め，インターネットによるいじめの加害者，被害者とならないよう継続的に指導する。

(2) いじめの早期発見の取組

- ア 心と体のアンケートや教育相談を定期的に（年3回）実施し，児童の小さなサインを見逃さないように努める。
- イ 教師と児童との温かい人間関係づくりや，保護者との信頼関係づくりに努め，いじめ等について相談しやすい環境を整える。
- ウ いじめ相談電話等，外部の相談機関を紹介し，児童が相談しやすい環境を整える。

(3) いじめに対する措置

- ア いじめの発見・通報を受けたら「いじめ・不登校対策委員会」を中心に組織的に対応する。
- イ 各学年で得られた情報を学校全体で共有し，指導の重点や対応を全職員へ伝え，早期対応を行う。
- ウ 被害児童を守り通すという姿勢で対応する。
- エ 加害児童には教育的配慮のもと，毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- オ 教職員の共通理解，保護者の協力，スクールカウンセラー等の専門家や，警察署，知多市青少年支援課，児童相談所等の関係機関との連携のもとで取り組む。
- カ いじめを見逃ごさない，生み出さない集団づくりを行う。
- キ ネットやSNSなどでのいじめへの対応については，必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

4 重大事態への対応

- (1) 重大事態（*2）が生じた場合は，速やかに教育委員会に報告をし，「重大事態対応フロー図」に基づいて対応する。
- (2) 学校が事実に関する調査を実施する場合は，「いじめ・不登校対策委員会」を開催し，事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。
- (3) 調査結果については，被害児童，保護者に対して適切に情報を提供する。

*2 重大事態の定義：

- ・いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命，心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき

- ・いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき ※相当の期間とは、年間30日を目安とする。

5 学校の取組に対する検証・見直し

- (1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、PDCAサイクル（PLAN→DO→CHECK→ACTION）で見直し、実効性のある取組となるよう努める。
- (2) いじめに関する項目を盛り込んだ教職員による取組評価及び保護者への学校評価アンケートを年に1回（11月）実施し、いじめ・不登校対策委員会でいじめに関する取組の検証を行う。

6 その他

- (1) いじめ防止に関する校内研修を年1回計画し、児童理解やいじめ対応に関する教職員の資質向上に努める。
- (2) 「学校いじめ防止基本方針」は、旭東小学校のホームページに掲載し、保護者への周知、協力を図る。
- (3) 長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

【重大事態の対応フロー図】

